



## Botswana Medical Information



2018年11月

### 医療トピックス

#### 【ボツワナ国内のロタウイルスによる下痢症流行の終息】

11月15日、保健大臣は国会にて、8週間続いたロタウイルス下痢症のアウトブレイクが終息したことを、報告しました。9月2日から11月3日の間に41,556件の下痢症、31人の死者が報告されました。患者さんの80%は2歳以下とのことです。国立衛生研究所にて472の便検査が行われ、うち316(67%)がロタウイルス陽性でした。流行の原因は特定されておらず、水質や、当地の小児定期予防接種に使用されているロタウイルスワクチンに問題はないとのことです。

WHOとボツワナ大学の分析によると、下痢のシーズンは1月から3月と、8月から10月の2回あることが判明し、保健省はサーベイランスや下痢予防対策を行い今後のアウトブレイクを予防する旨述べています。

### 新聞報道抜粋

#### ●下痢症アウトブレイク沈静化

保健省のメディアブリーフによると、42週時点でハボロネ、チョベ、ジュワネン以外の地域において、下痢症患者の流行が沈静化してきた。原因はロタウイルスと同定された。保健省は、下痢症データ、ロタウイルスワクチンのデータ、水質評価、死亡症例検討、アウトブレイク調査レポートのまとめを開始し、水質悪化と下痢症の発症との関連について否定し、引き続きコミュニティへの関与と予防、衛生教育を行うと述べた。

(5日モニター紙)

#### ●ナミランドで狂犬病流行

Bodibeng, Kgomotshwana, Schithwa, Tsau, Okavango district (Shakawe, Nokaneng)において、狂犬病が報告された。野生のジャッカルの牛、山羊、ロバなどの家畜を噛んだことにより、狂犬病が発症したと推測されている。狂犬病で死んだ動物を食べることにより狂犬病を発症する可能性があるため、狂犬病で死んだ動物は焼却する必要があるため、政府は狂犬病の症状のある動物がいるときは報告するよう呼びかけている。

(6日デイリーニュース)

#### ●ヘルスセクターの開発

マシシ大統領は所信表明において、保健省は8つのプロジェクトを予定しており、スタッフの住宅や、マシュパ、シャカウエに70床の病院を建築する計画があると述べた。この

病院が完成することにより、住民の5キロ圏内に基本的な医療サービスが整うことになる。コミュニティヘルスワーカーはプライマリケアを担い、18の地区マネジメントチームの一員となる。ボツワナ大学教育病院は2019年3月にオープンする予定。結核は2017年に5383人診断されており、公衆衛生上の問題である。

(7日デイリーニュース紙)

#### ● 水質管理の強化

保健省は水質と下痢症のアウトブレイクに関連がないことを報告した。

また今後、水質管理とモニタリングを強化し、利用場所での残余塩素の測定を行うことになった。9月のアウトブレイク以降、38人の5才以下の小児死亡者が報告されたが、下痢症は5歳以上の子供にも発症した。

ロタウイルスワクチンの質や輸送時のコールドチェーンに問題はなかった。

(8日デイリーニュース)

#### ● ボツワナ国民の寿命

女性の平均寿命は68.4歳であり、男性は63.6歳。2013年のデータと比較すると、男性の寿命は1.9年延長し、女性は2.8年短縮した。HIV/AIDS と結核が死因の40%をしめ、特に若年者において HIV/AIDS の影響が顕著である。(4-10日 サンデースタンダード)

#### ● 新しい病院の計画

保健大臣は、ハボロネでは私立病院として3か所目となる、建設中の **Sidilega Private Hospital** を見学し、予定通りに建築が進んでいることを賞賛した。現在建設は80%完了しており、2019年3月に終了予定。多数の専門科と外傷治療施設をもつ110床の病院となる。

(15日デイリーニュース)

#### ● ボツワナ国内の医療機関で治療を完結させることが可能である

保健大臣は、以前は南アフリカへ転院して治療を行っていた疾患でも、現在では、当地の医療施設で大部分の医療を完結できる旨述べた。以前は心臓、腫瘍、泌尿器、婦人科などは専門科が不足しており、他国へ転院させており、ヘルスシェアという事業者がボツワナから他国への転院の手配をしていた。2018年5月に契約が終了したのちは、更新をしていない。現在 **NetCare** グループの病院への転院が困難となっており、他病院へ依頼している。保健省は政府の病院や私立病院を利用し専門医が治療にあたるように調整している。(15日デイリーニュース)

●下痢症のアウトブレイクが終息

15日、保健大臣は国会にて、8週間続いた下痢症のアウトブレイクが、31人の死者をだし終息したことを報告した。9月2日から11月3日の間に41,556件の下痢症が報告され、そのうち80%は2歳以下であった。国立衛生研究所にて472の便検査が行われ、うち316(67%)がロタウイルス陽性であった。保健省はWHO、ボツワナ大学公衆衛生学部と共同し、緊急時準備と対応策を作成した。また毎日地域からのレポートが送られ、ロタウイルスの迅速キットが地域に発送された。

WHOとボツワナ大学の分析によると、下痢のシーズンは1月から3月と、8月から10月の2回あることが判明し、保健省はサーベイランスや下痢予防対策を行い今後のアウトブレイクを予防する旨述べた。

(19日デイリーニュース)

●医薬品の規制について

保健大臣は医薬品の安全性確保のための登録と使用に関して、ボツワナで使用される医薬品を扱う業者(輸入、輸出、配達、販売等)は保健省の医薬品規制部署に登録され、輸入される医薬品は安全性と質をモニターしている旨、国会にて述べた。また医薬品のサンプル抽出し、医薬品品質検査室にて医薬品の質がモニターされている。私立クリニックや医薬品販売施設も含め、違法なものや標準以下のものが輸入され、使用されないように、不正な医薬品の販売は10万ブラの罰金または10年の実刑となる。

(19日デイリーニュース)

●HIVに関する市民社会等による会合

上記会合にて、保健省事務次官は、HIV対策への効果的介入は国レベルのアプローチから特定の地域やグループを優先的に対象とする方向へシフトする必要があると述べた。さらに新規感染の予防を重点にした革新的介入とトリートオールイニシアチブによるユニバーサルアクセスが必須である。また保健省はユニバーサルヘルスケアを達成するためにプライマリヘルスケアの再活性化を進めている。

(22日 デイリーニュース)

●ドイツ大統領夫人がベイラー小児センターを訪れる

ドイツ大統領夫人はマシシ大統領夫人と共にベイラー小児センターを訪れ、12000ブラの寄付とマンゴーの木を植樹した。

センターは2003年にHIVとともに生きる若者達のための支援センターとして開園した。

(23日デイリーニュース)

文責: 高原 野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)